

保育内容に関する保育者のケアリングの研究動向と課題

鹿児島純心女子大学大学院

井 上 祐 子

和文要旨

本研究は、保育者のケアリングに関する国内外の研究論文を対象に、特に保育内容に着目して、今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。研究論文の収集には、「CiNii」と「ERIC」を使用した。最終的に10件の保育者のケアリングに関する研究論文において、定性的研究と定量的研究に着目し、保育内容が言及されているか否かを吟味した。その結果、これまで保育内容に関する保育者のケアリングにおいて、定性的研究及び定量的研究はほとんど見当たらなかった。以上の結果は、保育内容に関する保育者のケアリングの研究の必要性を示唆するものである。

キーワード：保育内容 保育者 ケアリング 定性的研究 定量的研究

1. 序論

経済協力開発機構（OECD）をはじめとする国際機関が、幼児教育や保育を表現する際、「Early Childhood Education and Care」（ECEC）と表記していることから明らかなように（OECD 2018）、子ども達の教育とケア（保育）は切り離せるものではない。我が国においても、子ども・子育て支援新制度は、幼児期における質の高い学校教育・保育提供を目的に、保育の仕事に教育機能を含む方向性を示している。また、保育所は児童福祉施設のひとつではあるが、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との3法令において、3歳以上児の保育に関するねらいと内容において整合性が図られ、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」といった保幼小接続を意識した幼児教育を新たに担うことが求められている。さらに、保育所保育指針第1章総則2養護に関する基本的事項（1）養護の理念¹⁾、学校教育法第3章幼稚園第22条²⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則第2教育と保育の内容に関する全体的な計画の作成³⁾においても、教育と保育の関わりが明記されている。

このように海外や国内においても、国際機関や制度、法令において、教育と保育の関わりが明記され、重視されているが、幼児教育は、保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を中心に行われており、教科を中心とする小学校以上の教育と異なっていることから、幼児教育と小学校教育との接続には難しさがある。本研究では、教育と保育の関わりが重視されながらも、幼児教育と小学校教育との接続に難しさがあることを考慮し、保幼小接続につながる保育実践を整理することに意義があると考え、保育者が子ども達に行うケアリングに着目した。

メイヤロフの著書“On Caring”において初めて使用されたCaring（以下、ケアリング）という用語は、看護学、教育学、哲学等に幅広く影響を与えている（西田2015;36）。メイヤロフは、ケアを「他者の成長をたすけること」と考え（田村・向野1987：92）、「ケアには、その相手が、自ら適したときに、適した方法で成長していくのを信頼（Trust）することが含まれる」と指摘している（田村・向野1987：50）。このメイヤロフのケアに関する言及は、子どもの発達に必要な経験を得られるよう、環境を構成し、援助を行うといった保育者による子ども達への発達支援にも

つながるものである。上記より、本研究では、保育者によるケアリングについて、メイヤロフの「他者の成長をたすけること」(田村・向野1987)という考えを援用し、「保育者のケアリングとは、子ども達の発達に必要な経験を得られるよう援助を行うこと」と操作的に定義し、保育者のケアリングに着目することは、保育能力の向上の一助になると考えられる。

そこで、本研究では、保育能力の向上への示唆を得ることをねらいとして、保育内容に関する保育者のケアリングについての国内外の研究論文を整理し、今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。

研究論文の収集において、国内文献の検索には「CiNii」(NII学術情報ナビゲータ[サイニィ])を用い、このときの検索キーワードは「保育内容 AND 保育者 AND ケアリング」「保育内容 AND ケアリング」「幼児教育 AND 保育 AND ケアリング」「幼児教育 AND ケアリング」「保育 AND ケアリング」「幼稚園 AND ケアリング」「保育所 AND ケアリング」とした。海外文献の検索には「ERIC」(Education Resources Information Center)を用い、このときの検索キーワードは「the contents of childcare AND preschool teacher AND caring」「the contents of childcare AND caring」「Early Child-hood Education AND Care AND caring」「Early Child-hood Education AND caring」「nursery center AND caring」「day care center AND caring」「day nursery AND caring」とし、「Peer reviewed only」との検索対象指定を行った。

上記のデータベースにおいて抽出された文献は、以下の①～⑥の選定基準に従い、対象文献を選定した。その選定基準は、①重複している文献は削除すること、②出典不明の文献は削除すること、③入手困難な文献は削除すること、④インタビュー、書評及び会議資料は除くこと、⑤保育者と保育専攻の学生を研究対象としていること、⑥保育者の

ケアリングについて検討していること、である。

以上の基準で選定した研究論文に対し、「対象」「方法」「概要」に着目して整理した。

なお、倫理的配慮として、「日本社会福祉学会研究倫理指針 第2 指針内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討に際しては、現著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説との峻別を行った。

II. 本論

II-1. 分析に用いた研究論文の概要

国内の研究論文の検索には「CiNii」を用い、次のキーワードで検索を実施した。その検索結果は、「保育内容 AND 保育者 AND ケアリング」では0件、「保育内容 AND ケアリング」では0件、「幼児教育 AND 保育 AND ケアリング」では1件、「幼児教育 AND ケアリング」では1件、「保育 AND ケアリング」では22件、「保育所 AND ケアリング」では1件であり、合計25件であった。海外の研究論文の検索には「ERIC」を用いた。検索結果は、「the contents of childcare AND preschool teacher AND caring」では0件、「the contents of childcare AND caring」では2件、「Early Child-hood Education AND Care AND caring」では1件、「Early Child-hood Education AND caring」では1件、「nursery center AND caring」では2件、「day care center AND caring」では17件、「day nursery AND caring」では1件であり、合計24件であった。上記より、国内外の研究論文を「CiNii」「ERIC」を用いて検索した結果、49件が抽出された。

それら49件に対し、上記の①～⑥の選定基準に従い、さらに分析対象(文献)の選定を試みた。49編のうち、重複している文献7件、インタビュー、書評及び会議資料4件、児童養護施設の最低基準の改善に関する研究論文1件(Miller 1974)、アルツハイマー病患者とその家族のためのレスパイトケアに関する研究論文1件(Sands, et al.

1983), 成人デイケアにおける家族支援に関する研究論文1件 (Dilworth-Anderson 1987), イスラエルの社会福祉機関による子どもと親への危機介入に関する研究論文1件 (Frank, et al. 1989), 大学に設置されている子育てセンターのリスク管理に関する研究論文1件 (Terrell 1989), 乳児保育における親と保育者関係尺度の開発に関する研究論文1件 (Elicker 1997), 保育者を対象とした, 特別支援を必要とする幼児の地域密着型プログラムへの参加に関する研究論文1件 (Dinnebell, et al. 1998), 学童保育に関する研究論文2件 (Shaunessey 2001; 村井 2007), 病児の子育てに対する公共政策に関する研究論文1件 (Heymann, et al. 2002), 代替医療, 補助医療等を必要とする子どもや青少年を支援する職員に関する研究論文1件 (Ainsworth, et al. 2006), 対象児童のクラスでの様子や幼児との関わりから幼小連携の意味の在りようを探求した研究論文1件 (林2007), 家庭科教育に関する研究論文3件 (鎌野 2007; 鎌野・伊藤2012; 鎌野 2013), アメリカでの家庭科教育に関する研究論文1件 (貴志 2008), 児童虐待及び精神的健康問題等, 社会的養護を必要とする子ども達に関する研究論文1件 (Curry, et al. 2010), 幼児と高齢者の世代間の交流に関する研究論文1件 (Davidson, et al. 2010), 乳幼児を対象としたプログラムに関する研究論文1件 (McMullen, et al. 2012), アメリカ都市部におけるアフリカ系アメリカ人移民の保育者としてのアイデンティティ構築に関する研究論文1件 (Grimes 2013), 放課後児童指導員養成に関する研究論文1件 (川又 2014), 家族保育に関する研究論文1件 (Durden, et al. 2016), 生後9~78ヶ月の乳幼児の食事に関する縦断的事例研究1件 (Ishiguro 2016), 保育所の運営評価に関する研究論文1件 (Akinnubi 2016), 子ども達を対象とした共同体意識を築くプロセスに関する研究論文1件 (Koivula, et al. 2017), 先住民族に対する幼児教育とケアサービスに関する研究論文1件

(Harrison, et al. 2017), 性的暴力に対する教育機関の取り組みに関する研究論文1件 (Bittner, et al. 2018), 外国人の子どもの発達保障に関する研究論文1件 (林 2018) を除いた。その結果, 保育者のケアリングについて検討している研究論文として, 10件を分析対象とした(図1)。

上記の10件の研究論文の対象に関する内訳は, 保育者を対象とした文献が8件 (中野2001; 中野2009; 小林2009; 中山2010; 田代2014; 笠野2015; 吉國2015; 田代2017), 学生を対象とした文献が2件 (音山2003; 音山2005) であった。

また, 方法に関する内訳は, 重複しているものもあるが, 文献研究が6件 (中野2009; 小林2009; 田代2014; 笠野2015; 吉國2015; 田代2017), 事例研究が1件 (中山2010), 保育実践記録の分析が1件 (吉國2015), 質問紙調査が3件 (中野2001; 音山2003; 音山2005) であった。

分析対象とした10件の研究論文において, 中野 (2001) は, 幼稚園・保育所に勤務する保育者におけるケアリング行動の実際を明らかにした。

音山 (2003) は, 中野 (2001) によるケアリング行動調査項目のうち, 「保育者の子どもに対するケアリング」51項目をもとに, 「乳児へのスキンシップ (『授乳の時, 抱いて飲ませる』など)」などの項目を除外し作成した43項目を用いて, 実習中における実習生のケアリング行動を測定するとともに, ストレスの情動的側面に焦点を当て, 情動を中心とする心理的ストレス・プロセス仮説に基づき心理ストレス反応との関連を検討した。

音山 (2005) は, 中野 (2001) によるケアリング行動調査項目のうち, 「保育者の子どもに対するケアリング」51項目をもとに, 「乳児へのスキンシップ (『授乳の時, 抱いて飲ませる』など)」などの項目を除外し作成した43項目を用いて, 保育実習生が実習中に経験するケアリングと心理的ストレス反応との関連を検討した。

中野 (2009) は, 幼稚園教育要領と保育所保

育指針の「人間関係」領域において見出すことのできるケアリング教育の姿を考察した。

小林 (2009) は、学校教育や保育における子どもの育ちを、実践における人とかかわりの視点から把握するために、ケア概念について検討した。

中山 (2010) は、「協同する経験」の中で「幼児 - 幼児」間の関係性を構築していく保育実践のプロセスを分析・検討することを通して、その実践のプロセスを明らかにし、このプロセスの中で果たしている保育者の役割・機能を導き出した。

田代 (2014) は、ネル・ノディングズが提唱

するケアリングにおけるケアする人のあり方について検討した。

笠野 (2015) は、保育の質確保と子どもの最善の利益に焦点をおく保育とは何かについて、メイヤロフとノディングスのケアリングを手掛かりに検討した。

吉國 (2015) は、保育実践の認識論的、倫理的次元を理論化するための示唆を与えるものとして、ノディングスのケアリング論を受容性の概念に着目して検討した。

田代(2017)は、子どもと相互的な関係にある保育者の専門性について検討した (表1)。

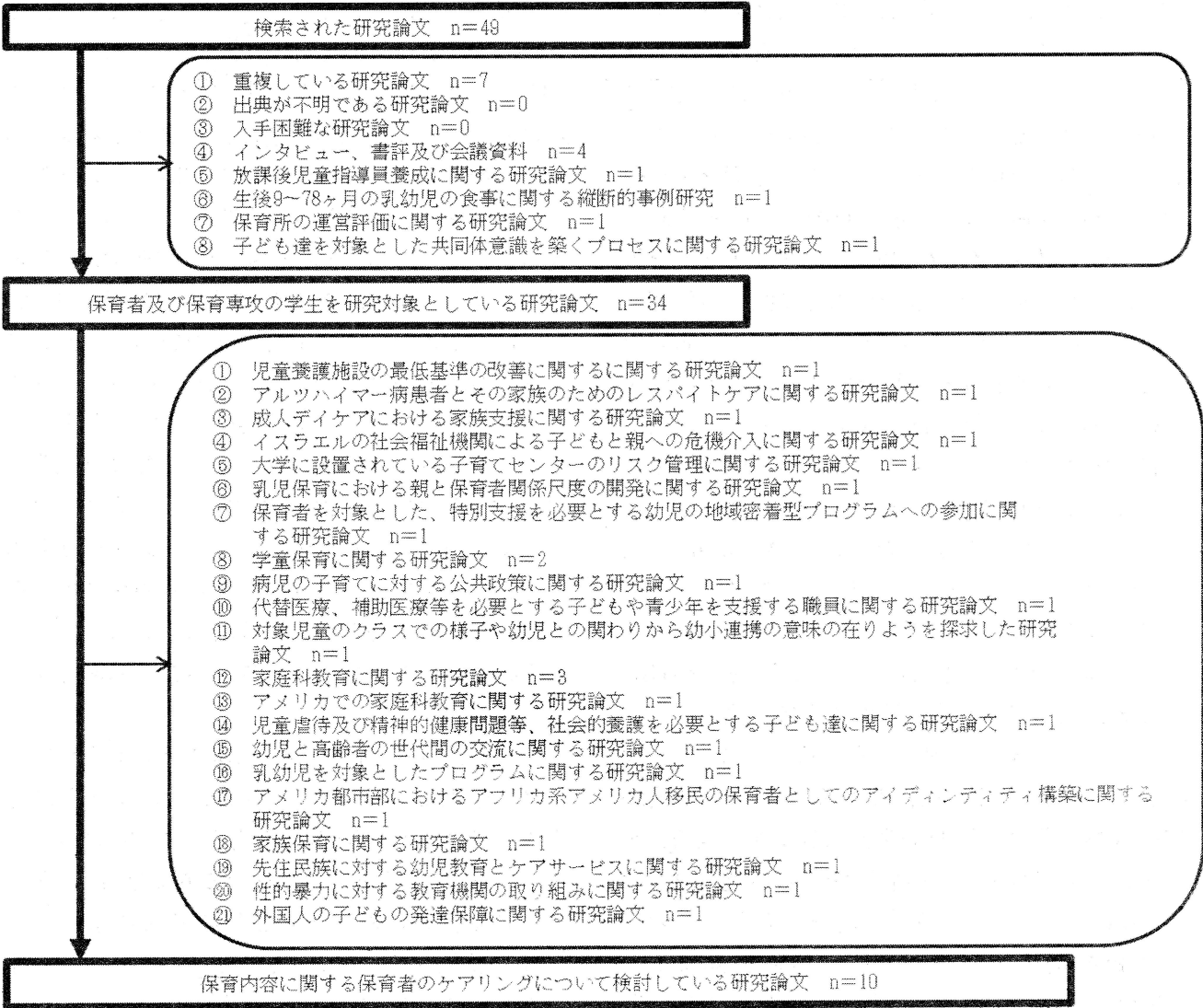


図1 分析に必要な研究論文の選定の流れ

表1 保育内容に関する保育者のケアリングについて検討している研究論文

番号	筆者	対 象	方 法	概 要
1	中野 (2001)	幼稚園・保育所に勤務する保育者 n=666	質問紙調査	幼稚園・保育所に勤務する保育者におけるケアリング行動の実際を明らかにした。
2	音山 (2003)	保育実習を履修した短大生 n=187	質問紙調査	中野（2001）によるケアリング行動調査項目のうち、「保育者の子どもに対するケアリング」51項目をもとに、「乳児へのスキンシップ（“授乳の時、抱いて飲ませる”など）」などの項目を除外し作成した43項目を用いて、実習中における実習生のケアリング行動を測定するとともに、ストレスの情動的側面に焦点を当て、情動を中心とする心理的ストレス・プロセス仮説に基づき心理ストレス反応との関連を検討した。
3	音山 (2005)	保育実習を履修した短大生 n=165	質問紙調査	中野（2001）によるケアリング行動調査項目のうち、「保育者の子どもに対するケアリング」51項目をもとに、「乳児へのスキンシップ（“授乳の時、抱いて飲ませる”など）」などの項目を除外し作成した43項目を用いて、保育実習生が実習中に経験するケアリングと心理的ストレス反応との関連を検討した。
4	中野 (2009)	保育者	文献研究	幼稚園教育要領と保育所保育指針の「人間関係」領域において見出すことのできるケアリング教育の姿を考察した。
5	小林 (2009)	保育者	文献研究	学校教育や保育における子どもの育ちを、実践における人とのかかわりの視点から把握するために、ケア概念について検討した。
6	中山 (2010)	保育者	事例研究	「協同する経験」の中で「幼児－幼児」間の関係性を構築していく保育実践のプロセスを分析・検討することを通して、その実践のプロセスを明らかにし、このプロセスの中で果たしている保育者の役割・機能を導き出した。
7	田代 (2014)	保育者	文献研究	ネル・ノディングズが提唱するケアリングにおけるケアする人のあり方について検討した。
8	笠野 (2015)	保育者	文献研究	保育の質確保と子どもの最善の利益に焦点をおく保育とは何かについて、メイヤロフとノディングスのケアリングを手掛かりに検討した。
9	吉國 (2015)	保育者	文献研究、及び 保育実践記録の 分析	保育実践の認識論的、倫理的次元を理論化するための示唆を与えるものとして、ノディングスのケアリング論を受容性の概念に着目して検討した。
10	田代 (2017)	保育者	文献研究	子どもと相互的な関係にある保育者の専門性について検討した。

II-2. 保育内容に関する保育者のケアリング研究の対象、方法及び領域

上記の10件の研究論文の対象に関する内訳は、保育者を対象とした文献が8件（中野2001；中野2009；小林2009；中山2010；田代2014；笠野2015；吉國2015；田代2017）、学生を対象とした文献が2件（音山2003;音山2005）であった。また、方法に関する内訳は、重複しているものもあるが、文献研究が6件（中野2009；小林2009；田代2014；笠野2015；吉國2015；田代2017）、事例研究が1件（中山2010）、保育実践記録の分析が1件（吉國2015）、質問紙調査が3件（中野2001;音山2003;音山2005）であった。さらに、保育内容における領域に関する内訳は、「人間関係」に関する保育者のケアリングに関する研究論文が1件（中野2009）であった（表2）。

表2 保育内容に関する保育者のケアリングについての研究動向

番号	筆者	対 象		方 法		保育内容における領域				
		保育者	学生	定性的研究	定量的研究	健康	人間関係	環境	言葉	表現
1	中野 (2001)	○			○					
2	音山 (2003)		○		○					
3	音山 (2005)		○		○					
4	中野 (2009)	○		○			○			
5	小林 (2009)	○		○						
6	中山 (2010)	○		○						
7	田代 (2014)	○		○						
8	笠野 (2015)	○		○						
9	吉國 (2015)	○		○						
10	田代 (2017)	○		○						

III. 結論

本研究では、保育能力の向上への示唆を得ることをねらいとして、保育内容に関する保育者のケアリングについての国内外の研究論文を整理し、今後の研究課題を明らかにすることを目的に行った。

収集した研究論文において、保育者を対象とした文献が8件（中野2001；中野2009；小林2009；中山2010；田代2014；笠野2015；吉國2015；田代2017）、学生を対象とした文献が2件（音山2003;音山2005）であった。また、方法に関する内訳は、定性的研究が7件（中野2009；小林

2009；中山2010；田代2014；笠野2015；吉國2015；田代2017），定量的研究が3件（中野2001；音山2003；音山2005）であった。さらに、保育内容における領域に関する内訳は、「人間関係」に関する保育者のケアリングに関する研究論文1件（中野2009）であった。

これまで保育内容に関する保育者のケアリングについての研究論文では、保育者を対象とした、領域「人間関係」に関する保育者のケアリングについて定性的研究が行われてきた（中野2009）。

しかし、領域「健康」に関する保育者のケアリング、領域「環境」に関する保育者のケアリング、領域「言葉」に関する保育者のケアリング、領域「表現」に関する保育者のケアリングについての定性的研究及び定量的研究はほとんど見当たらなかった。また領域「人間関係」に関する保育者のケアリングについての定量的研究もほとんど見当たらなかった。今後、領域毎に保育者のケアリングについて定性的研究及び定量的研究を蓄積していくこともまた、課題の一つとして考えられよう。

さらに、保育内容5領域に関する保育者のケアリングについての定性的研究及び定量的研究もほとんど見当たらなかった。2020年代から学習指導要領の全面改訂が予定される中、子どもの育ちは、幼児教育から小学校、中学校、高等学校まで一貫してとらえられ、幼児教育と小学校教育との円滑な接続が一層重視されている。この幼児教育と小学校教育との円滑な接続における大きな課題として、保育内容5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」と、教科を中心とする小学校以上の教育の違いが指摘されてきた。今後、保育者が保幼小接続を意識した幼児教育を求められる中、保育内容5領域に関する保育者のケアリングについて研究を蓄積していくこともまた、課題の一つとして考えられよう。

注

- 1) 「保育所における保育は、養護と教育を一体的に行うことをその特性とするものである。」と明記されている（厚生労働省2017）。
- 2) 「幼稚園は、義務教育とその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」と明記されている（文部科学省2007）。
- 3) 「各幼保連携型認定こども園においては、教育基本法（平成18年法律第120号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）と認定こども園法その他の法令並びにこの幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示すところに従い、教育と保育を一体的に提供するため、創意工夫を生かし、園児の心身の発達と幼保連携型認定こども園、家庭と地域の実態に即応した適切な教育と保育の内容に関する全体的な計画を作成するものとする。」と明記されている（内閣府2014）。

文献

- Ainsworth, Frank, and Fulcher, Leon C. (2006) Chapter 7. Creating and Sustaining a Culture of Group Care, *Child & Youth Services*, 28 (1-2), 151-176.
- Akinnubi, Caroline Funmbi. (2016) Assessment of Day Caring Methods among Civil Servant Mothers of Reproductive Age in Lagos State Nigeria, *World Journal of Education*, 6 (3), 21-28.
- Bittner, Martin, and Wittfeld, Meike. (2018) Pedagogical Relationships in Times of Sexual Violence: Constituting Intimacy and Corporality at the Limits, *Ethnography and Education*, 13 (2), 254-268.
- Curry, Dale, Eckles, Frank, Stuart, Carol, and Qaqish, Basil. (2010) National Child and Youth Care Practitioner Professional Certification: Promoting Competent Care for Children and Youth, *Child Welfare*, 89 (2), 57-77.
- Davidson, Stephanie R., and Boals-Gilbert, Beverly. (2010) What Age Gap? Building Intergenerational Relationships, *Dimensions of Early Childhood*, 38 (2), 23-29.
- Dilworth-Anderson, Peggye. (1987) Effectiveness of Family Support Group Involvement in Adult Day Care, *Family Relations*, 36 (1), 78-81.

- Dinnebell, Laurie A., McInerney, William, Fox, Christine, and Juchartz-Pendry, Kerry. (1998) An Analysis of the Perceptions and Characteristics of Childcare Personnel Regarding Inclusion of Young Children with Special Needs in Community-Based Programs., *Topics in Early Childhood Special Education*, 18 (2) , 118-128.
- Durden, Tonia, Mincemoyer, Claudia, Crandall, Leslie, Alviz, Kit, and Garcia, Aileen. (2016) Gateway to Quality: Online Professional Development for Family Childcare Providers, *Early Child Development and Care*, 186 (7) , 1079-1095.
- Elicker, James. (1997) The Parent-Caregiver Relationship Scale: Rounding out the Relationship System in Infant Child Care., *Early Education and Development*, 8 (1) , 83-100.
- Frank, Marjorie, and Others. (1989) Caring for Day Care: A Pilot Project, *Child Welfare*, 68 (1) , 69-78.
- Grimes, Nicole K. (2013) The Nanny in the Schoolhouse: The Role of Femme-Caribbean Identity in Attaining Success in Urban Science Classrooms, *Cultural Studies of Science Education*, 8 (2) , 333-353.
- Harrison, Linda J., Sumsion, Jennifer, Bradley, Ben, Letsch, Karen, and Salamon, Andi. (2017) Flourishing on the Margins: A Study of Babies and Belonging in an Australian Aboriginal Community Childcare Centre, *European Early Childhood Education Research Journal*, 25 (2) , 189-205.
- 林浩子 (2007) 「幼小の交流活動から見えてくるもの:一幼小連携におけるもう一つの意味」『保育学研究』45(2),175-182.
- 林恵 (2018) 「福祉の現場から 外国人の子どもの発達を保障する保育: 言語を中心として: 群馬県大泉町における取り組みから」『地域ケアリング』20(9),63-65.
- Heymann, S. Jody, Vo, Phuong Hong, and Bergstrom, Cara A. (2002) Child Care Providers' Experiences Caring for Sick Children: Implications for Public Policy, *Early Child Development and Care*, 172 (1) , 1-8.
- Ishiguro, Hiroaki. (2016) How a Young Child Learns How to Take Part in Mealtimes in a Japanese Day-Care Center: A Longitudinal Case Study, *European Journal of Psychology of Education*, 31 (1) , 13-27.
- 鎌野育代 (2007) 「ケアリング教育から捉え直した保育学習の検討」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』50,19.
- 鎌野育代・伊藤葉子 (2012) 「中学生たちは, 家庭科の保育・家族学習におけるロールプレイングを通して, 何を学ぶのか?」『千葉大学教育学部研究紀要』60, 259-266.
- 鎌野育代 (2013) 「家庭科における『ケアリング』の教育実践の検討」『千葉大学教育学部研究紀要』61, 227-232.
- 笠野恵子 (2015) 「保育の質とケア論: メイヤロフとノディングスのケア論を手がかりにして」『九州社会福祉学年報』7, 27-35.
- 川又俊則 (2014) 「なぜ養護教諭養成校で放課後児童指導員を養成するのか?」『生活コミュニケーション学: 鈴鹿短期大学生活コミュニケーション学研究所年報』5, 23-34.
- 小林浩之 (2009) 「保育におけるケア概念の検討-養護と教育の一体性に着目して」『教育実践総合センター研究紀要』18, 141-149.
- Koivula, Merja, and Hännikäinen, Maritta. (2017) Building Children's Sense of Community in a Day Care Centre through Small Groups in Play, *Early Years: An International Journal of Research and Development*, 37 (2) , 126-142.
- 厚生労働省 (2017) 「保育所保育指針」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>, 2018.8.26)
- McMullen, Mary Benson, and Apple, Peggy. (2012) Babies (and Their Families) on Board! Directors Juggle the Key Elements of Infant/Toddler Care and Education, *Young Children*, 67 (4) , 42-48.
- Miller, Margaret D. (1974) Improving Standards for Child Care Institutions: A Study in Procedure, *Child Welfare*, 53 (4) , 237-242.
- Milton Mayeroff. (1971) On Caring: Harper Collins Publishers. (=1987, 田村真・向野宣之訳『ケアの本質—生きることの意味』ゆみる出版.)
- 文部科学省 (2007) 「学校教育法等の一部を改正する法律について (通知)」
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07081705.htm, 2018.8.26)
- 村井尚子 (2007) 「学童期における『保育』の必要性」『大阪樟

- 陸女子大学人間科学研究紀要』6, 95-108.
- 内閣府 (2014) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
(<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyousei/h260430/c1-2-honbun.pdf>, 2018.8.26)
- 中野啓明 (2001) 「保育者によるケアリング行動の分析」『新潟青陵女子短期大学研究報告』31, 49-70.
- 中野啓明 (2009) 「『人間関係』領域におけるケアリング」『新潟青陵学会誌』1(1), 19-29.
- 西田絵美 (2015) 「メイヤロフのケアリング論の構造と本質」『佛教大学大学院紀要.教育学研究科篇』43, 35-51.
- OECD (2018) Early Childhood Education and Care - Home
(<http://www.oecd.org/education/school/earlychildhoodeducationandcare.htm>, 2018.8.25)
- 音山若穂 (2003) 「保育実習生のケアリング行動と心理的ストレスの関連」『保育士養成研究』21, 1-8.
- 音山若穂 (2005) 「保育実習生のケアリング行動と心理的ストレスとの関係」『日本教育心理学会総会発表論文集』47, 416.
- 中山芳一 (2010) 「保育実践におけるケアの同心円構造についての考察：協同の経験によるケアリング関係の構築に焦点を当てて」『乳幼児教育学研究』19, 83-94.
- Sands, Dan, and Suzuki, Thelma. (1983) Adult Day Care for Alzheimer's Patients and Their Families, *Gerontologist*, 23 (1), 21-23.
- Shaunessey, Tara. (2001) "Caring for School Age Children," by Phyllis M. Click., *Canadian Journal of Research in Early Childhood Education*, 8 (4), 71-73.
- 貴志倫子 (2008) 「米国家庭科の教科書からみた家庭科におけるケアリング教育」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』51, 9.
- 田代和美 (2014) 「ネル・ノディングズのケアリングにおけるケアする人について:ケアする人としての保育者を養成するための手がかりを求めて」『大妻女子大学家政系研究紀要』50, 49-58.
- 田代和美 (2017) 「子どもと相互的な関係にある保育者の専門性とは」『大妻女子大学家政系研究紀要』53, 81-88.
- Terrell, Patricia S. (1989) The Application of Risk Management Principles to College and University Child Care Centers, *NASPA Journal*, 27 (2), 135-140.
- 吉國陽一 (2015) 「ノディングズのケアリング論から保育実践への認識論的, 倫理的示唆:受容性の概念に着目して」『田園調布学園大学紀要』10, 221-234.

Trends and issues of studies on the preschool and nursery teachers' caring about the contents of childcare

INOUE yuko

In this study, I take up both domestic and foreign papers on the preschool and nursery teachers' caring, and intended to grasp trends and issues of studies on them, especially focusing on the contents of childcare. Web searches were conducted using 2 databases, "CiNii" and "ERIC". Finally, I paid attention to qualitative research and quantitative research of the ten papers on preschool and nursery teachers' caring, and examined whether the contents of childcare were referred to or not. As a result, I could not find qualitative research and quantitative research on preschool and nursery teachers' caring about the contents of childcare. The above result suggests that I need to study the preschool and nursery teachers' caring about the contents of childcare.

Key words :contents of childcare, preschool and nursery teachers, caring, qualitative research, quantitative research